

読み解く

台湾、人権 米中の溝深く

偶発的衝突回避は一致

両首脳、オンライン会談

【北京・坂本信博、サンフランシスコ金子子渡】バイデン米大統領と中国の習近平国家主席は日本時間16日午前(米東部時間15日夜)、オンライン形式で会談した。米中対立が深まる中、激化する競争が偶発的な衝突に発展しないよう首脳対話を継続することで一致した。ただ、台湾や人権問題を巡っては互いの主張の応酬となり、経済問題の議論も深まらなかった。共同声明など具体的な成果物はなく、次回会談についての具体的な合意もなかった。

米中首脳の顔合わせは11月16日、両氏が直接会話をす
るのは2月と9月の電話会

談に続き3回目。会談は約25分間の休憩を含め約3時間40分に及んだ。バイデン氏は「米中の指導者は両国の競争が衝突に発展しないようにする責任がある。共通認識に基づくガードレールが必要だ」と呼び掛けた。習氏は「平和で安定した国際環境を守るには健全で安定した両国関係が必要だ。前向

「一つの中国」空虚に

中国人民大学の時殷弘教授(国際関係)の話。首脳会談後、実務レベルで衝突防止に役立つ議論を進める可能性がある。気候変動やアフガニスタン対応では具体的な協力を探るかもしれない。だが一連の(台湾や南シナ海など)重要な問題で双方の立場は依然面対立を含めた台湾支援政策をめぐり、「一つの中国」政策をめぐり、米中両政府は「新冷戦」だと考えている。(北京共同)

大胆な一歩とならず

米ワシントン大のデービッド・バックマン教授(米中関係)の話。今回のオンライン首脳会談は強懸念があった。中国と台湾の統一実現に力を入れている。バイデン大統領と習氏のオンライン会談は重要な電話会談以上のもではなかった。大胆な一歩にはならなかった。米中対立が制御不能に陥るのを防ぐことだ。期待は早い。(ワシントン共同)

バイデン氏 選挙控え「弱腰」警戒

習氏 3期目へ譲歩に慎重

画面越しのトップ会談はなるのか。3時間超に及んだ米中関係改善のきっかけに
16日のオンライン首脳会



15日、米ホワイトハウスで、中国の習近平国家主席とのオンライン会談に臨むバイデン大統領
=ワシントン(ロイター=共同)

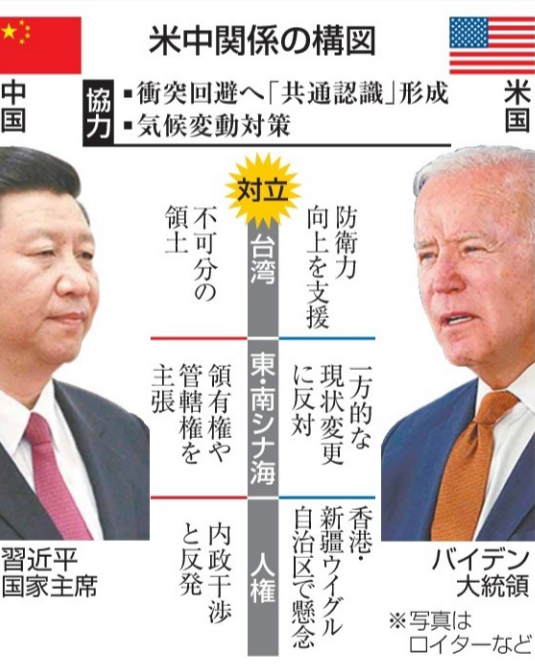
談。バイデン米大統領と中国の習近平国家主席は対話継続で一致したものの、台湾問題などは溝の深さを浮き彫りにした。来年初には米中ともに重要な政治イベントを控えており、互いに国内世論をにらみながら神経戦を続ける見通しだ。「(今回は)副大統領時代」訪中した時のように対面で会談することを望む。会談の冒頭、バイデン氏が呼び掛けると、習氏も「古くからの友人に会えてとてもうれしい」と応じ、融和ムードを演出した。米中の対立は安全保障が

ら貿易摩擦、新疆ウイグル自治区や香港での人権問題まで幅広い分野に及ぶ。とりわけ、中国が「核心的利益」とする台湾問題が火種としてくすぶっている。

バイデン氏が「(米国に)防衛義務がある」と発言するなど台湾への関与を強める米国に対し、中国は強く反発。台湾の防空識別圏に1日当たり過去最多の軍用機を飛ばし、軍事的圧力を強めてきた。

今回、両国首脳が一致した衝突回避の必要性は国際社会の要請である一方、バイデン氏は、自らの威信をかけた来年初の北京冬季五輪に、中国の人権問題を理由に政府関係者を出席させない「外交ボイコット」が国際社会で取り沙汰されていることを警戒。外交筋は「外交で得点を稼ぎたいバイデン氏と、米中との関係を修復しておきたい習氏の狙いが重なった」とみる。

しかし、台湾や人権問題を巡っては主張がことごとく対立した。バイデン氏は会談で「米国は常に自分たちの利益と価値、同盟・友



強く反対する」と述べ、両国の隔たりが浮き彫りになった。バイデン氏は新疆ウイグル、チベット両自治区や香港での人権問題に懸念を表明し、中国に国際法の順守を要求。中国の海洋進出に対して「自由で開かれたインド太平洋」の重要性にも言及した。習氏は「人権問題を利用した内政干渉」と反発。「両国は互いを尊重し、平和的に共存、協力すべきだ」と訴えた。